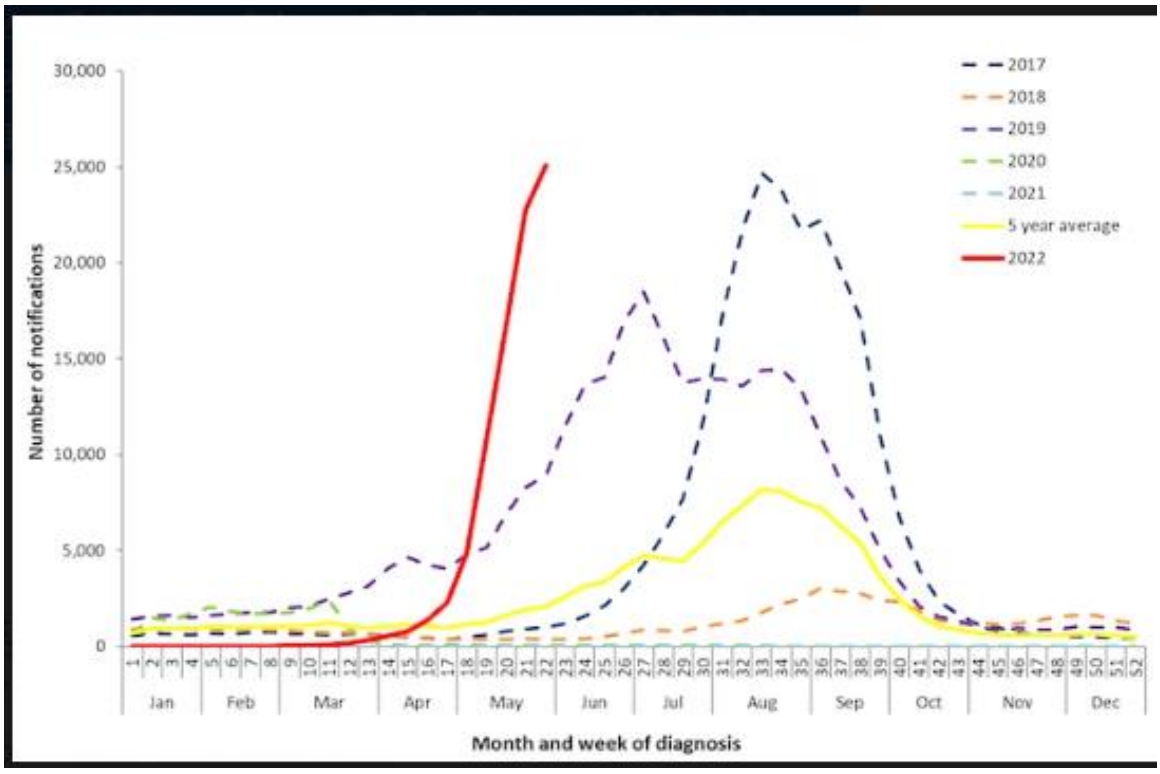
豪州でインフル流行　コロナと同時「ツインデミック」に　日本も早期の流行警戒

2022 年 6 月 18 日　日本経済新聞

オーストラリアでインフルエンザ患者が急増し、新型コロナウイルスと同時流行する「ツインデミック」ともいえる状況になっている。豪州のインフル流行は、日本での冬の流行をはかる重要な先行指標とされる。コロナ禍で国内のインフル患者は大きく減り、免疫を持つ人が少ない。専門家は 8 月にも流行が始まる可能性を指摘し、早期の警戒を呼びかける。

南半球の豪州は日本とは季節が逆で、例年 6～9 月ごろがインフルの流行期だ。コロナの流行が始まった 2020 年以降、豪州でも 2 年連続でインフル患者は大きく減っていた。だが、22 年は 4 月末ごろから患者の報告が急増している。



豪保健省によると、22 年に入ってから 6 月 5 日までに約 8 万 8 千人のインフル患者が報告された。このうち半数以上の 4 万 8 千件弱は 6 月 5 日までの 2 週間に診断されたものだ。4 月半ばから過去 5 年間の平均を超える数の報告が続く。コロナ前の 19 年など例年よりも患者の増加が始まる時期が早く、増加のペースも大きく上回っている。

インフルとコロナは感染経路がよく似ており、冬に流行しやすい。同時に流行するツインデミックはこれまでも警戒されていたが、コロナの流行だけですんでいた。コロナ対応としてのマスク着用や手洗い、距離の確保といった感染対策や入国規制がインフルにも効果的だったとみられる。

ただ、経済社会活動の再開に伴って対策の緩和・解除が進む。2 年続いてインフル流行が抑えられていたことで、インフルに対する免疫を持つ人が減ったことも感染拡大の要因とみられている。世界保健機関（WHO）によると、南半球では豪州のほか、ニュージーランド、南米のチリやウルグアイでもインフル患者が増加している。

一般的に、豪州の状況は日本での冬の流行をはかる重要指標といわれている。国立感染症研究所の鈴木基・感染症疫学センター長は「今後、日本も入国者が増え、接触機会も戻る

ことでインフルの流行が起きることは間違いない。過去よりも早く8月や9月に流行が始まったり、規模が大きくなったりする可能性がある」と警鐘を鳴らす。
日本は足元ではコロナ感染者の減少傾向が続くが、冬に向けて再び感染が広がる可能性はある。人口の6割以上がワクチンを3回接種したものの、感染や発症を防ぐ効果は時間とともに下がる。オミクロン型は免疫をすり抜ける性質を強めるように変異を続けており、新たな変異ウイルスが現れる可能性もある。
鈴木センター長は「インフルエンザワクチンの接種体制を早期に準備する必要がある」と指摘する。インフルとコロナの両方でワクチンや検査の体制を整えるとともに、医療逼迫を避ける対策も求められる。（越川智瑛）